

## 学会・シンポジウム情報

### 第3回日本応用藻類学研究会総会・春季シンポジウム

「有用海藻の成熟および細胞分化とその応用」  
-より効果的な種苗生産技術の発展へ向けて-

企画の趣旨

有用海藻の最も基本的な栽培技術は、養成する藻体の「たね」となる生殖細胞や藻体の採苗や種苗生産の技術である。栽培対象種の中でも高い生産量を維持しているノリ、ワカメ、コンブなどの採苗や種苗生産では、従来から、系統保存株または野生の成熟藻体が母藻として用いられている。また、多くの海藻の種苗生産は、その生活史の特性から、生産対象となる藻体の「たね」を採苗するのではなく、1世代前の生殖細胞を得ることから始まる。例えば、ノリの種苗生産では、葉状体から放出された接合胞子かフリー糸状体保存株を貝殻に播いて穿孔させ貝殻糸状体を用意し、ワカメやコンブでは母藻から放出された遊走子か配偶体保存株を採苗糸に付着させる。いずれも、約半年間にわたって人為的に培養管理した後、本格的な養成開始時期に合わせて生産の対象となる世代の「たね」(ノリの場合は殻胞子、ワカメやコンブの場合は卵)を人為的に誘導して採苗し、種苗を育成する。これらの主要海藻の種苗生産や培養管理は、それぞれの長い栽培の歴史の中で改良が加えられながら発展し、現在、一応の技術的な確立をみている。しかし、近年、海藻類では組織や細胞の培養研究が進展し、栄養繁殖や生殖細胞の分化、さらに、それらの人為的な制御技術について数多くの知見が集積されつつあり、より効果的な新規技術開発の可能性が高まっている。また、栽培のための種苗生産だけではなく、藻場造成などへ応用が可能な技術の開発も進んでいる。さらに、近い将来には、「環境藻場」や「バイオマス藻場」の造成用種苗として、効率のよい種苗の量産技術の開発が必要になることも予測される。そこで、本シンポジウムでは、最近の成果を踏まえて、海藻の種苗生産に必要とされる技術の新たな展開方向や提案を紹介し論議する。

日時：2004年5月29日(土曜日) 9:00-17:00(懇親会あり)  
場所：東京海洋大学

参加費(講演要旨代を含みます)：

事前申込者：会員 1,000円、非会員 3,000円

当日参加者：会員 2,000円、非会員 4,000円

講演要旨代：1,000円

弁当代：1,000円(土曜日は大学生協の食堂は閉店のため、希望者には予約販売いたします。)

懇親会費：3,000円(シンポジウム終了後、東京海洋大学大学生協食堂で開催します。)

参加申込締切：5月14日までに下記宛にメールまたはFaxで参加希望(弁当および懇親会を含めて)をご連絡下さい。参加費および弁当代・懇親会費(希望者のみ)は当日会場でお受けいたします。

参加申込先および弁当・懇親会申込先(5月14日締め切り)

〒108-8477 東京都港区港南4-5-7

東京海洋大学応用藻類学研究室

藤田大介(日本応用藻類学研究会幹事)

E-mail: d-fujita@tokyo-u-fish.ac.jp

Tel & Fax: 03-5463-0537

お問い合わせ先：東京海洋大学海洋生物資源学科応用藻類学研究室

主催責任者：能登谷正浩(日本応用藻類学研究会会長)

TEL: 03-5463-0532 FAX: 03-5463-0688